

ごあいさつ

平成28年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第55回）開催にあたり

平成28年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第55回）

学会長 油野 友二

（一般社団法人石川県臨床衛生検査技師会会長）



この度、平成28年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第55回）を一般社団法人石川県臨床衛生検査技師会が担当し、中部圏支部各県の皆様のご協力のもと平成28年12月10日（土）、11日（日）の両日に金沢市において開催させていただくことになりました。開催にあたり、ご協力いただきました関係団体、賛助会員各位に御礼申し上げます。

本学会メインテーマは「輝きある検査びとへの新軌道」 ～医療Ensembleの担い手として～ です。

少子高齢化、人口減少など足早に変貌する日本で、医療情勢は医師不足や医療経営などますます厳しさを増し、医療チームの名の下で業務の効率的分担と医療安全の向上などの動きが加速しています。このような動きの中で私たち臨床検査技師は専門職として何をなすべきかが問われ、日臨技は検体採取や検査相談・説明のできる技師育成などの事業を推進しています。しかし、医療チームの中での業務拡大だけで良いのだろうかとの声もあります。本学会ではサブテーマにもあるように「医療Ensembleの担い手」という新たな視点で臨床検査そして臨床検査技師のあるべき・進むべき姿を考えてみたいと思います。それが「輝きある検査びとへの新軌道」です。

そこで、メインシンポジウムでは、「医療Ensembleの担い手」として臨床検査技師はどのようにあるべきなのか。また、次世代を担う若い人たちにはどうあって欲しいのか。そのためにはいかに育てていくべきなのか。新たな検査技師像を「検査びと」と呼び、先進的取り組みを検証し、将来への一歩を考える場としたいと考えております。文化講演は第55回学会であることから「夢への挑戦とそのための人材育成」 ～NYヤンキース 55松井選手に憧れ、NY進出を夢見て発信した 金沢カレー～と題して株式会社ゴーゴーカレーグループ 代表取締役 宮森 宏和氏に、教育講演は「木を見て森も見る医療の実践」と題して堀田修クリニック HOC 院長 堀田 修先生にご講演いただきます。一般演題は各分野より128題の発表、8部門別検査研究班企画など充実した内容となりました。

例年より遅い12月の開催で、金沢は少し寒い気候かと思いますが、日本海の冬の味覚である蟹（ズワイガニ、香箱蟹）の解禁時期でもあります。寒ブリ・甘海老との三種丼など魅力満載です。北陸新幹線開通で一新した金沢駅前の学会場で、多くの会員の皆様とお会いできます日を石臨技会員一同お待ちいたしております。